

News Letter

平成19年9月20日発行



日本小児歯科学会九州地方会
会長 橋本 敏昭

巻 頭 言

平成18年11月26日、鹿児島で開催されました第24回九州地方会大会及び総会、そして平成19年2月18日北九州市小倉で開催されました専門医・認定医合同セミナーには多数の会員の皆様方の御参加をいただき、盛会裡のうちに無事終了することが出来ました。これもひとえに会員の皆様方の情熱とお力によるものと心より感謝申し上げます。さて、本年度は平成19年11月25日(日)に長崎におきまして藤原大会長のもと、第25回大会及び総会が開催されることになっております。本年度の事業計画は、当学会としては初めての試みとして「他学会とのジョイントを試みる。」ということで同日開催となります日本障害者歯科学会と合同で懇親会を開催することとなりましたので皆様お誘い合わせの上、多数の御参加をお願いいたします。

本年度より医療法の改正により医療安全管理体制の強化が計られようとしています。しかし、最近のニュースにおいて小児歯科診療における医療事故や訴訟が依然として大きく報道されているのは皆様ご周知の事と思います。中医協の医療機関コスト調査分科会が最近行った調査によりますと、歯科診療所が外来患者1人1回当たりにかかる医療安全コストは平均268円になるとのことですが、人の命はお金では換算できるものではありません。小児の歯科診療を安全確実にを行うためのシステム作りと環境の整備、そして何より医療従事者一人一人の自覚と責任感がなければこういった事故は繰り返されるのではないのでしょうか。今後の小児歯科医療の発展のためには学会を挙げて「小児の安全で確実な診療を保障できる診療体系の確立」を検討することが急務であると私は考えています。そして国民が安心して小児歯科診療を受けられるよう学会会員の英知を結集すべきではないのでしょうか。

現在親学会では様々な改革が行われておりますが、我々役員は九州地方会の意見を集約しそれを伝えることにより、より良い方向性を親学会の方で検討していただく事も地方会の役割の一つと考えております。今後も会員一人一人の声が届くよう鋭意努力していこうと考えておりますので御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

九州地方会は1983年10月に福岡県において設立され、今年で25年目を迎えます。これもひとえに歴代会長をはじめとする役員の方々の御努力のたまものであると感謝申し上げます。次のページに25周年の感謝を込めまして歴代会長の皆様方を写真にて御紹介させていただきます。(2007年8月)

日本小児歯科学会九州地方会歴代会長

		会長名	大学・開業医	期 間
	初 代	吉田 穰	福岡歯科大学	昭和58年5月～ 昭和63年3月(2期)
	第2代	木村 光孝	九州歯科大学	昭和63年4月～ 平成4年3月(2期)
	第3代	後藤 譲治	長 崎 大 学	平成4年4月～ 平成8年3月(2期)
	第4代	小椋 正	鹿 児 島 大 学	平成8年4月～ 平成10年3月(2期)
	第5代	中田 稔	九 州 大 学	平成10年4月～ 平成12年3月(1期)
	第6代	本川 涉	福岡歯科大学	平成12年4月～ 平成14年3月(1期)
	第7代	瀬尾 令士	開 業 医	平成14年4月～ 平成16年3月(1期)
	第8代	藤原 卓	長 崎 大 学	平成16年4月～ 平成18年3月(1期)

副会長挨拶



日本小児歯科学会九州地方会
副会長 久芳 陽一

平成18年度より、日本小児歯科学会九州地方会副会長を勤めさせていただいております、くば小児歯科の久芳です。橋本会長より副会長のご指名を賜り、その重責を担う事になりました。幹事として長年、本会に参加してまいりましたので、諸先輩方のご指導、ご教示を賜った数々の教えを深く念頭において、地方会発展のために多少とも寄与できればと思っております。

小児歯科学会では、資格審査後、認定医から専門医への移行が進んでおります。しかし一般の方々の認識は、小児歯科専門医は子どもだけを見る人、認定医の方が資格があってこちらの方が良さそうだという声も聞いております。小児歯科学会会員だけは分かっている、国民の皆さんと認識のずれが生じてきているようです。日本小児歯科学会・九州地方会でも、

専門医や認定医に対する認知や理解を深めていただく啓蒙活動が、さらに必要と思われま

す。乳幼児の医療費補助についても、各地で話題になっております。私が開業しております福岡市では平成19年8月1日より就学前の医療費が無料となります。平成20年の保険制度改正により6歳未満は2割負担になりそうですが、後は県、市町村が補助を担うようです。地域によって、自治体の財政状況によって子ども達の負担が違うというのも、おかしなものです。これに対しても、各関連団体と協調して、地域ごとの活動で効果を上げ、格差の是正を目標にしたいものです。多くの国民の声としてまとめれば、国も動くかもしれません。

さて、当地方会は小児歯科学会会員数4,182名中530名の会員で構成されています。こちらで把握できる研究会も12団体あります(2006年8月29日付調査)が、ここにもう1つ新しい会が発足しました。沖縄小児歯科研究会です。会員の先生からのお話ですと、3歳児のう蝕罹患率はここ4年間全国ワースト1で、重症度も大であるそうです。しかも歯科を受診してくる子供は良い方で未受診、未処置など潜在患者が多いのも特徴だそうです。離島も多く、治療するにも困難な事も多い地域で、小児歯科医療に頑張っていこうとする先生方の現場の声を聞きながら地方会に反映させていければと考えています。

最後になりましたが、会員の先生方からご忌憚のないご意見を伺い、開かれた地方会になりますよう尽力致しますので、皆様方のご意見、ご協力の程をお願い申し上げます。

第24回 日本小児歯科学会九州地方会大会報告

日時 平成18年11月26日(日)

場所 かごしま県民交流センター

第24回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会は平成18年11月26日(日)に鹿児島大学大学院歯学総合研究科口腔小児発達学分野 山崎要一教授を大会長として、「小児歯科における診断と治療の新たな展開」をメインテーマに、かごしま県民交流センターにおいて開催されました。学会当日は、あいにくの小雨模様の曇天でしたが、歯科医師201名、衛生士・助手その他23名、計224名の参加のもと盛大に開催されました。大会の午前中は、開会式、一般講演(3題の口頭発表)に続き、奥猛志先生と大野秀夫先生による特別講演が行われました。奥先生には「う蝕予防の新しい試み—ステファナリシスを用いたmotivationとリスク管理—」という演題で、プログラムソフト、ステファナリシスのデータから得られた結果とそれを用いた保健指導の

実際についてご講演をいただきました。大野先生には「子ども歯科へのレーザー応用」という演題で、小児歯科におけるう蝕治療、根管治療、歯周疾患治療、外科治療など、さまざまなレーザー利用の取り組みについて多くの症例を通じてご講演をいただきました。特別講演の後、専門医認定委員会 藤原委員による日本小児歯科学会専門医制度についての説明会が行われ、平成20年度からの専門医制度本格実施に向けて準備しておくべき事項などについての説明がありました。

お昼休みには、学会会場に隣接する県政記念館内の「華蓮Jr」にて懇親会が行われ、小椋正鹿児島大学名誉教授、中田稔九州大学名誉教授にもご参加いただき、思い出話に花が咲きました。浜田義彦中四国地方会会長にも遠方よりご参加いただきました。

午後からは、総会に続き、21題の展示発表についての活発な質疑応答が行われ、その後、柳澤宗光先生と嘉ノ海龍三先生による特別講演が行われました。柳澤先生には「ムーシールドによる幼児期反対咬合の早期初期治療」という演題で、反対咬合の原因、早期初期治療の考え方、ムーシールドの使用方法などについてご講演をいただきました。嘉ノ海先生には「埋伏歯の臨床 その診断と早期治療について」という演題で、臨床において遭遇する頻度の高い埋伏歯の分類、原因、対処法などについて多くの症例を通じてご講演をいただきました。なお、歯科器材展示においては、17社にご協力をいただき、最新の歯科器材などの情報を得ることができました。

最後に、特別講演でご講演を頂いた諸先生方、機材展示、協賛、広告をいただきました企業の皆様、活発な質疑応答をいただいた会員各位、大会開催にご協力頂いた関係各位、さらにご支援賜りました鹿児島県歯科医師会、鹿児島市歯科医師会、鹿児島県歯科衛生士会に厚くお礼申し上げます。

(文責：大会長 山崎要一、準備委員長 吉原俊博)



第24回日本小児歯科学会九州地方会総会議事録

日時 平成18年11月26日(日) 13:30から

場所 かがしま県民交流センター2階中ホール

司会進行：西岡幹事

1. 開会の辞 野中副会長
2. 会長挨拶 橋本会長
3. 第24回日本小児歯科学会九州地方会大会長挨拶 山崎大会長
4. 物故会員黙祷 矢田育男先生、木山恭一先生、後野恭子先生に対して黙祷がささげられた。
5. 議長選出 鬼塚先生が選出された。

議 事

- 1) 会則の一部改正について
橋本会長から日付の変更と事務局を九州歯科大学口腔機能発達学分野に移動した旨報告があり承認された。
 - 2) 第23回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会会計決算報告
早崎先生より報告があった。
 - 3) 平成16～17年度日本小児歯科学会九州地方会会計決算報告
藤原教授より報告があった。
 - 4) 第23回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会決算及び平成16～17年度日本小児歯科学会九州地方会会計決算監査報告 尾崎監事より2)と3)の議案に対して監査報告があり承認された。
 - 5) 第26回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会開催地について 橋本会長より本川教授のもと福岡歯科大学主催で開催されることが提案され、承認された。
 - 6) 日本小児歯科学会県代表委員の選定について
橋本会長より説明があり、当会においてはすでに県代表幹事が選出されているため、この方々に県代表委員になってもらうことが提案され承認された。
6. その他
- ・ 専門医認定医合同セミナー(小倉開催)について
藤原実行委員長より準備状況及び案内状の送付の件について報告があった。
 - ・ 母子健康手帳について
奥特別幹事よりポスターの配布の件などの報告があった。
 - ・ 第25回日本小児歯科学会九州地方会大会長挨拶
藤原次期大会長より日本障害者歯科学会との合同開催となることが報告された。
7. 閉会の辞 久芳副会長

平成18年度日本小児歯科学会専門医・認定医合同セミナー報告

セミナー実行委員長 藤原 卓



平成18年度専門医・認定医合同セミナーが平成19年2月18日(日)に小倉の北九州芸術劇場中劇場で行われました。これまで年二回の認定医セミナーが行われていましたが、専門医制度がスタートし、専門医更新のための生涯研修単位数が増加したことをふまえ、セミナーの開催回数を増やすという土屋理事長の方針の下、急遽追加開催となりました。

初めての中四国地方会と九州地方会の合同開催ということや、当初会員への広報が遅れたことなどなどもあって、参加者が集まるか心配しておりましたが、当日は200名を越える参加者が

有り、九州、中四国の会員のみならず、近畿地方会の会員の顔も見うけられました。また理事長をはじめ朝田専門医認定委員会委員長や四役会のメンバーも来ていただきました。

内容は鶴見大学歯学部法医学教室・専任講師の佐藤 慶太先生による「医療過失に関する歯科医の社会責任－これまでとこれから－」と、松本歯科大学大学院・教授の新井嘉則先生による「小児歯科における歯科用エックス線CTの応用」の2つのテーマでいずれも興味深い内容でした。

最後に会場の確保や当日の運営にあたりサポートしていただいた橋本地方会会長と九州歯科大学の医局員の皆さまにはこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。

第25回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会のお知らせ

大会長 藤原 卓
準備委員長 佐々木康成

第25回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会を、「小児歯科における障害の受容」をメインテーマとして、下記の通りに開催致しますのでご案内申し上げます。今回、徒歩2分の近隣会場（長崎ブリックホールほか）で、第24回日本障害者歯科学会（11月24～25日）が同時開催されます。

大会および総会：平成19年11月25日（日）8：45～17：00
長崎県歯科医師会館（JR九州 浦上駅裏すぐ）
〒852-8104 長崎市茂里町3番19号
Tel：095-848-5970

懇親会：平成19年11月24日（土）19：00～21：00
長崎梅松鶴（第24回日本障害者歯科学会との合同懇親会）
〒852-0041 長崎市浜平2丁目14-1
Tel：095-824-2153
（懇親会会場へは長崎ブリックホールから送迎バスが利用できます）

大会内容：1）講演

コデンタルセミナー「障害児の摂食・嚥下指導」
東京都立東大和療育センター 歯科衛生士 水上美樹
教育講演「地域の子供達と小児歯科専門医」
長崎市開業 有田信一
特別講演「障害をもった子供の家族への受容支援」
北九州市立総合療育センター歯科部長 武田康男
「遺伝カウンセリングとそれを通じた障害の受容支援」
長崎大学病院小児科准教授（遺伝カウンセリング室）近藤達郎

2）一般講演：展示発表

3）ケースプレゼンテーション：認定医・専門医資格更新のための展示発表

大会事務局：〒852-8588 長崎市坂本1丁目7番1号
長崎大学医歯薬学総合研究科小児歯科学分野内
TEL：095-849-7674 FAX：095-849-7676

第26回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会のご案内

大会会長 本川 涉
準備委員長 竹島 勇

来年の地方会は、沖縄県歯科医師会の協力のもと、福岡歯科大学が主催して沖縄県宜野湾市で行われます。皆様のご協力と参加を宜しくお願いいたします。

日時：平成20年11月23日（日）

会場：沖縄コンベンションセンター

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1

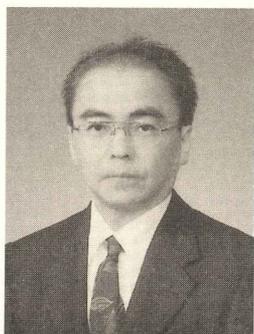
事務局：福岡歯科大学成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野

〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1

TEL：092-801-0411 FAX：092-801-4909

e-mail：mozaki@college.fdcnet.ac.jp

母子健康手帳の改定のご報告ならびに活用のお願い



日本小児歯科学会
地域保健委員会委員
奥 猛志

日本小児歯科学会では、母子健康手帳の改訂に伴い、1歳6ヶ月および3歳児健康診査の健康票や歯科の内容に関して変更・追加等の検討を行っております。

平成19年度の改正では新たに、「歯の名称と生える時期」「初めての歯みがきのポイント」などが加わった他、「歯の健康診査、保健指導、予防措置」のページに乳歯のみでなく永久歯も記載できるようになりました。

このように、母子健康手帳には主に市町村が行っている1歳6ヶ月および3歳児健康診査結果を記載するページの他に、1歳、2歳、4歳、5歳、6歳等の時期でも歯式と簡単な口腔内の状態を診査できるように1ページ設けられております。しかしながら、1歳6ヶ月および3歳児健康診査以外、歯科医院等で母子健康手帳があまり活用されていないため、歯科の内容削除も議論されています。

母子健康手帳が、将来的には全ての国民に対して「生涯健康手帳」として個人の健康管理の重要な資料として生涯を通じた活用も検討されている中で、歯科の項目や内容が大幅に削除されることは大変重大な問題だと考えています。

母子健康手帳は両親にとって大切なお子様の成長の記録帳です。そこで、私たち小児歯科学会員が、率先して母子健康手帳を活用することで、保護者の方がお子様の歯と口腔の健康に関心を持っていただき、子どもたちの健康にとって口腔の保健がいかに重要かを国民、医療関係者および行政関係者にアピールしていかねばならないと考えます。また、実際に活用される場合の不備な点は本学会としても改善に向けての要望をしたいと考えていますので、ご意見をお寄せいただきたいと存じます。

何卒、以上の趣旨をご理解いただき会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

日本小児歯科学会ホームページwww.jspd.or.jpにて、母子健康手帳活用に関する歯科医院掲示用ポスターがダウンロードできますので、ご活用くださいますよう、お願いいたします。

平成19年度 日本小児歯科学会九州地方会事業計画

1. 会員関係
 - (1) 会員の入退会
会員の入会、退会につき親学会と連携、協力を行う。
2. 機構整備
 - (1) 機構整備に関する検討
 - ①会の機構、組織及び運営に関する検討
本会の機構、組織の改善により運営の効率化を図るための検討を行う。
 - ②諸規則の検討
諸規則、諸規定の検討、策定を行い整備を図る。
3. 学術関係
 - (1) 日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会の開催
九州地区会員及びスタッフを対象として小児歯科医学の研鑽と啓発のための学会を開催する。また他学会とのジョイントを試みる。
4. 専門医・認定医制度関係
 - (1) 親学会と連携しセミナーの開催等健全なる運営、管理ができるよう協力する。
5. 広報関係
 - (1) ニュースレターの発行 本学会務運営の会員への伝達、周知に努める。
 - (2) ホームページの更新 親学会が運営するホームページの更新に協力する。
6. 各地方会との協議及び連携 各地方会間の連絡、地方会の問題などを協議し連携を図る。
7. その他

平成18年度 有限責任中間法人 日本小児歯科学会九州地方会 会計報告

収 入	単位:円
前年度繰越金	1,788,345
日本小児歯科学会より入金	766,000
第24回日本小児歯科学会九州地方会余剰金	25,352
預金利息	863
合計	2,580,560
支 出	
ニュースレター印刷費	75,000
第24回日本小児歯科学会九州地方会大会援助費	500,000
通信費	62,095
文具費	38,053
予備費(慶弔費)	47,250
会議費	83,340
雑費(振込手数料)	1,890
合計	807,628
次年度繰越金 (2,580,560 - 807,628)	1,772,932

上記の決算に間違いのないことを証明します。

会計監査 有田 信一 
 会計監査 尾崎 正雄 

第24回 日本小児歯科学会九州地方会大会 会計報告

A) 収入の部		
1) 当日会費 歯科医師	5,000円×196名	980,000
2)	歯科衛生士他 2,000円×23名	46,000
3)	ご祝儀(鹿児島県歯科医師会)	10,000
4)	学会本部補助金(日本小児歯科学会九州地方会)	500,000
5)	学会運営補助金(鹿児島県歯科医師会)	50,000
6)	広告費(展示、協賛を含む)	815,000
7)	雑費(利息、抄録代)	20,208
8)	懇親会会費	272,000
	小計	2,693,208
B) 支出の部(役員会費用を含む)		
1)	プログラム・抄録集印刷代	359,100
2)	ポスター印刷代	77,175
3)	通信費	134,600
4)	学会会場使用料	173,190
5)	学会会場設営費	1,035,000
6)	運営費(文具代含む)広告費(展示、協賛を含む)	153,789
7)	講師謝礼・旅費等	497,585
8)	懇親会会費	180,000
9)	人件費(アルバイト代、弁当代を含む)	57,050
10)	振込手数料	367
11)	余剰金(地方会へ返金)	25,352
	小計	2,693,208
A) 収入-B) 支出		0

監査の結果、上記の会計報告に何ら問題はありませんでした。

会計監査

有田 信一 
 尾崎 正雄 

平成18年度第2回日本小児歯科学会九州地方会役員会議事録

日時：平成18年11月25日(土) 18:00～

場所：鹿児島県民センター3階中研修室第2

出席者：橋本敏昭、野中和明、久芳陽一、藤原 卓、本川 渉、山崎要一、牧 憲司、西田郁子、西岡孝浩、馬場篤子、福本敏、細矢由美子、吉原俊博、空田安博、松田容士子、梅津哲夫、田口知義、木船敏郎、井上浩一郎、豊島正三郎、竹島 勇、有田信一、尾崎正雄、品川光春、奥 猛志、逢坂恒彦

欠席者：ナシ

司会進行：西岡幹事

1. 開会の辞 久芳副会長

2. 会長挨拶 橋本会長

3. 物故会員黙祷 後野恭子先生に対して黙祷がささげられた。

4. 報告事項

1) 第24回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会準備状況について

吉原準備委員長が翌日の学会のスケジュールなど報告した。

2) 第25回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会準備状況について

藤原大会長より平成19年11月25日(日)に長崎県歯科医師会館にて開催する旨報告があり、講師などの手配が進んでいる等の報告があった。また今回の大会は日本障害者歯科学会全国大会とジョイントして行い、大会会場は異なるが懇親会は同じ会場で前日18:30より開催されることとなった。よって役員会は15:00～16:00頃開催予定となった。

3) 平成18年度専門医認定医合同セミナー(開催地：小倉)の準備状況について

藤原実行委員長と西田幹事から報告があった。案内状は来月早々に郡山と鶴見のセミナーに出席しなかった専門医及び認定医全員に発送することになったとの報告があった。

4) その他

①新役員名簿の件について

西岡幹事より追加訂正等の報告があった。

②会員動向および住所不明者リスト

西岡幹事より報告があり心当たりのある方は連絡してほしいと要請があった。

③県代表委員の件および「こども健康週間」の件について

橋本会長と品川特別幹事より報告があった。

④各県における小児歯科の状況報告

橋本会長が経緯について説明後、アンケートに答えていただいた各県代表幹事がそれぞれの県の小児歯科の状況についての報告があった。

⑤空田幹事よりニュースレターの発行の件に関して報告があった。

5. 議長選出 久芳副会長が選出された。

6. 審議事項

1) 第24回日本小児歯科学会九州地方会総会について

橋本会長より総会の式次第及び役割分担についての説明があり承認された。

2) 第25回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会について

地方会大会の当日会費の変更について協議を行い、規約どおり役員会での採決が必要ということになった。

3) 九州地方会会則(内規)の変更について

橋本会長より内規について変更点の説明があり、承認された。

4) 九州地方会会計について

西田会計担当幹事より現在の予算執行状況の説明があり、郵送費節約のためできれば来年度のニュースレターの発送は地方会大会のプログラム・抄録とともに発送するほうが良いとの意見があった。また不足分に関しては繰越金か大会の運営費から支出するなどの点で承認された。

5) 日本小児歯科学会県代表委員の選出について

橋本会長より説明があり、県代表幹事の8名が県代表委員となることで承認された。

6) その他

①母子手帳とポスターの件について奥特別幹事から報告があった。

②乳歯う蝕の治療法に関するアンケートについて

西岡幹事より大野先生から依頼があったアンケート用紙の配布について説明があり、承認された。

③広報委員会および専門医認定委員会報告

藤原常任幹事からの報告があった。

④医療委員会報告

牧常任幹事より報告があり、意見交換が行われた。

7. 閉会の辞 野中副会長

講座紹介

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小児歯科学分野
教授 藤原 卓

九州地方会の皆様、長崎大学の藤原です。平成14年に長崎大学に赴任してから早いもので5年の月日が経ち、やっと長崎の地にも慣れ、地域との連携が果たせるようになってきた様な気がします。当教室は、昭和58年4月に後藤譲治教授のもとに開設され、四半世紀にわたって九州西部における小児歯科医療に携わってきました。現在の医局員の数は教員10名、大学院生2名とあまり多くはありませんが、研究、臨床ともに皆一丸となって頑張っております。しかしそろそろフレッシュな戦力も欲しいと思っております。

当教室で行っている主な研究テーマは、齲蝕病原細菌の病原因子についての研究、小児における口腔細菌の感染と定着に関する研究、乳歯及び幼若永久歯に対するレジンの接着性に関する研究、歯と審美的歯冠修復材の光学的測色に関する研究等です。最近では母乳と哺乳齲蝕の関係について精力的に研究を進めております。また昨年は、学術振興会の委託を受けて、「ひらめき☆ときめきサイエンス 虫歯はどうしてできるか?」と題して、中学生を対象に当分野で研究の一端に実際に触れてもらう機会にも恵まれました。

さて本年は11月25日(日)に長崎県歯科医師会館におきまして第25回日本小児歯科学会九州地方会大会を主催させていただき運びとなり、お誘いをおねがひして再度ご紹介申し上げます。詳しくは案内記事をご覧ください。初めでの試みとして、第24回日本障害者歯科学会総会および学術大会と同時期の開催とし、懇親会も合同で行うことといたしました。これによって、九州地区の会員のみならず、全国からの小児歯科に関わる人たちの参加が予想され、広く意見交換が出来る場を提供できると考えております。つきなみですが、長崎は古くから国際貿易港として栄えた街であり、その異国情緒あふれる町並みは、学会のついでに散策されますとエキゾチックな雰囲気を楽しむことと思えます。カステラ、ちゃんぽん、卓袱料理など長崎を代表する名物も沢山ございますので、この11月には皆様お誘い合わせの上、長崎にお越しください。よう心よりお願い申し上げます。



【特集】

九州各県の小児歯科事情

福岡県の小児歯科事情

福岡県内における年少人口(15才未満の人口)は約70万人で、県内総人口に対する割合は全国平均とほとんど同じレベルです。(全国平均13.7%、福岡県13.9%)(※1)

しかし県内の小児歯科専門の診療所と小児歯科を診療課目の一つとしている診療所及び大学病院の総数は400件を超え(※2)、年少人口10万人あたりでは約58件。件数の多さでは全国でもトップクラスです。(人口10万人あたりの歯科診療所数も58件で全国3位)一方小児のう蝕の状況は、1歳6ヶ月児歯科検診では一人平均う蝕数が0.16(全国平均0.15)であるのに対し、3歳児歯科検診では1.46(全国平均1.99)です。(※3)2回の検診期間中にう蝕



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 松田 容士子

は増加しているものの、その割合が低くおさえられています。およそ保護者が初めてわが子を歯科医院に連れてくる1歳半以降では、小児歯科医院の一定の成果が、又それ以前の時期についてはこれからの課題も見えてくるようです。

患者様から選ばれる状況にある福岡県の歯科医院、特に小児歯科専門の診療所では、定期検診やブラッシング指導の内容を工夫するのは勿論、子供の生活環境全般に対するアドバイスや啓発活動を行っています。咀嚼、嚥下、発音など口腔機能に係わる多方面からの指導を、積極的に行っている所も多いようです。

福岡市のスタディグループの一つに福岡小児歯科集談会があり、毎年歯科医師を対象とした講演会だけでなく、歯科衛生士に対するセミナーも開催しています。

北九州市では、木村光孝名誉教授が中心となり歯科以外の食物栄養学科、保健福祉学科等を専門とする大学と共に、成長発達期に応じた子供の健康に取り組んでいる学会があり、発足17年目を迎えています。また新たに臨床医を中心とした北九州市小児歯科集談会の正式な立ち上げも検討されております。

福岡県は、幸いにも3つの大学病院で小児歯科が開設されている恵まれた環境ですので、医局に在籍していない開業医の先生方も含め、単に患児の紹介だけでなく、診断や治療内容について大学病院との新しい連携のあり方も期待されます。

また個々の小児歯科医院については、一般歯科医院からの紹介や治療の相談を積極的に受け入れながら、口を通した全身の健康を地域に伝える発信地になっていければと願っています。

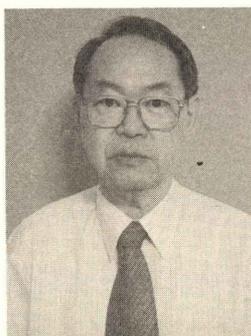
参考資料：

※1 平成17(2005)年国勢調査

※2 ここカラダ、アールスリーヘルスケアプランニング社が提供するインターネット病院検索総合サイト。

※3 厚生労働省児童家庭局母子衛生課調べ

大分県の小児歯科事情



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 木船 敏郎

大分県の小児歯科事情について説明することになりましたが、大分市内ならまだしも、大分県全体の小児歯科医療の現状を、あまり把握しているとは言えません。

大分県はご存知のとおり、面積のわりに人口は少なく、県全体でわずかに約120万人の人口しかありません。しかも大分市に約46万人、隣り合う別府市に約12万人と、大分・別府の両市で半数になります。

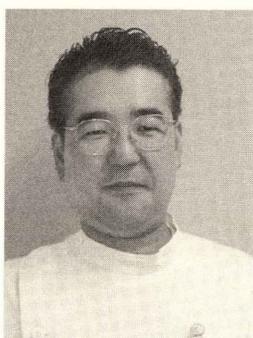
全県的にみると、少子高齢化と過疎化が進んでいます。歯科医療機関も大分・別府の両医療圏に集中し、他の地域では人口も少なく、歯科医療機関の数も少ない。子供の人口の減少が著しいということは、子供の歯科治療に専門分化したのでは、経営が成り立たないことを意味しています。

大分県の歯科医療では特殊な事情があり、乳臼歯の根管数が二根管でしか保険の請求が認められなかったり、C病名でのレントゲン撮影が認められなかったり、保険でのフッ素塗布がすべて返戻になる等、不当な環境の中で、何とかがんばってきました。このようなことは、現在はなくなりましたが、大分県は平均県民所得が低く、ウ蝕罹患率が高いわりには、歯科受診率が高いとはいえません。

腫れたり、自発痛がひどければ、歯科を受診しますが、痛みが直ると治療を中断するという患者さんが、いまだに後を絶ちません。しかもかなり遠くから、1時間を越える通院時間をかけて来ることもまれではありません。

このような環境の中で、何から手をつけたら良いのかと、思い悩みながらやっているのが、大分県の小児歯科事情といえましょうか。

佐賀県における小児歯科事情



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 梅津 哲夫

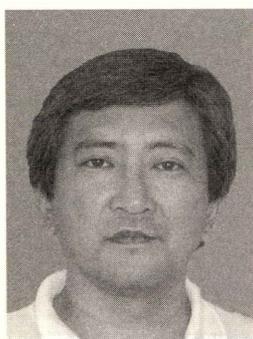
佐賀県における小児歯科医の数は認定医が約5名、専門医が約9名程です。佐賀県南部は佐賀平野に位置し、農業・漁業が盛んな地域であります。子育て環境においても祖父母と同居世帯が多く、小児のう蝕罹患率においては過去平成15年まで10年連続全国ワースト1という不名誉な記録を持っており、小児歯科、歯科医師会、行政をあげて、最近は学校歯科医会も活発に活動を行い、小児う蝕の減少に向けて頑張っております。その甲斐あって、現在ではワースト1を返上しておりますが、まだまだ全国平均までもいっていません。今後ますますの努力が必要だと思われます。

佐賀県のスタディーグループとしては佐賀小児歯科研究会があります。増田純一先生を顧問にお願いし、森永太先生を会長として、15名程で組織しております。小児歯科専門医、認定医の会として発足し、現在は一般歯

科医でも小児歯科に力を入れている方には日本小児歯科学会に入会していただいたうえで入ってもらっております。形式としては講師を迎えての勉強会方式や会員発表形式を取っております。

年2~3回をめぐりに勉強会を開催する予定にしておりますが、最近はどうしても延び延びになってしまっております。この原稿を書くのをいいきっかけにして大いに反省し、また気持ちを新たに勉強会を開催していきたいと思っております。皆様にもいろいろお願いすることがあるかもしれませんが、そのときはご協力の程よろしくお願いいたします。

長崎県の小児歯科事情



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 田口 知義

長崎県の人口は、150万人弱で、九州では福岡・熊本・鹿児島に続いて4位の県です。どうして、歯学部が熊本県になくて長崎県にあるのか不思議ですが、歯科医師数も、1189人でこれも4位ですが、人口10万人に対する歯科医師数は79.5人で福岡県に続いて第2位(福岡県96.6人鹿児島県68.4人熊本県64.9人)です。全国的に見ても歯科医師過剰県です。その中で、現在小児歯科の専門医が16名(含む長崎大学6名)、認定医18名(含む長崎大学5名)います。ただ、長崎県は離島を多数持ち、海まで含めると九州なみの面積になるわりに長崎市に小児歯科医が偏在しています。

小児のう蝕の状況は、1歳6ヶ月児歯科健診結果で常にワースト5位内に入るう蝕多発県です。1歳6ヶ月ですでにこのような結果ですので3歳児や学校でも同じような状態です。

1歳6ヶ月児う蝕有病者率

ワースト 順位	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
1	鹿児島県	沖縄県	鹿児島県	鹿児島県	沖縄県	宮崎県	沖縄県	鹿児島県	沖縄県	鹿児島県
2	沖縄県	島根県	秋田県	沖縄県	島根県	鹿児島県	鹿児島県	長崎県	鹿児島県	宮崎県
3	長崎県	鹿児島県	沖縄県	青森県	鹿児島県	沖縄県	宮崎県	福島県	長崎県	秋田県
4	青森県	長崎県	長崎県	長崎県	青森県	長崎県	熊本県	沖縄県	熊本県	沖縄県
5	群馬県	北海道	青森県	大分県	長崎県	北海道	長崎県	青森県	青森県	長崎県

県内の状況では、やはり都市部の長崎市や佐世保市が少なく、離島が高い結果がでています。

長崎県の小児への取組みとしては、何といたっても今年度から乳幼児医療費助成制度の年齢が引き上げられ、外来も就学前までになり1回800円まで、月1,600円までの支払いになりました。これは、小児歯科にとっても朗報ですが、長崎市と大村市だけが現物支給(病院が行政に申請する)で、あとの地区は償還払い(窓口では普通に支払い、あとで行政に申請して返還される)方式のため今後も行政に働きかけを行っていきたいと考えています。

また、長崎県歯科医師会では、地域保健(公衆衛生)担当理事が現在まで8期(22年間)小児歯科医(原口・角町・有田・田口)が務めているために小児の歯科保健はかなり充実しています。例えば、産婦人科の妊産婦教室で生まれてくる子の歯科保健指導を行う歯っぴいベビーシステム検討事業、フッ素洗口事業、保育所・学校の歯科健診集計事業、1歳6ヶ月歯科健診後に無料でフッ素塗布を行う歯育て健診等があります。

勉強会としては、有田会長率いる長崎小児歯科臨床医会があり、月1回の例会と年1回の年次集会があります。総勢18名で、例会には長崎大学の藤原教授を初め医局員の参加もあり、開業医と大学の関係も良好に行われています。

熊本県の小児歯科事情



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 逢坂 亘彦

熊本県の小児歯科学会会員は51名、その内、専門医10名、認定医12名、小児歯科専門、または医院名に小児歯科が有るもの5医療機関である。少し前まではスタディグループが2あった。しかし、今活動しているのは熊本小児歯科懇話会だけである。

当会は平成元年7月1日に「小児に関する地域保健の向上、ひいては歯科保健の発展を目的として、小児歯科及び小児保健に関連する人々の連係、情報交換、親睦の場」として発足した会である。地域に密着したスタンスで、子ども達や会員に還元出来るような活動を目指している。

発足以来、年3回の例会を欠かさず開いてきたおかげで、平成17年度にはめでたく50回例会を迎えた。記念講演会を、「Dr.向井の乳児期からの健口指導」と題し向井美恵昭和大学歯学部口腔衛生学教授にお願いし、新築まもない熊本県歯科医師会館講堂(約400人収容)を満席にした。17年で50回、計算が合わないが過去2回地方会を熊本で開催した。これを通算回数に数えていないためである。また、50回例会を記念して、写真を多く使った患者説明用のリーフレットを会員が日々の診療のなかで集めた貴重な症例を提供してもらい作成した。会員に配布して日常診療に役立っている。

例会の内容、日程などは会長、副会長を含む10名の運営委員が毎月集まり話し合っていて決めている。テーマは小児に関する事で最新の話が聞けるようにしている。特に九州に在る大学の新任教授は必ず講演をお願いしている。もちろん会員の発表もある。今まで講演会の日程の変更は一度もなかったが、今回は講師を東京の大学から呼び出したため、台風で交通機関が乱れ急きょ中止となった。こんなことは二度と無いようにしたいが、天候ばかりはどうしようもない。

設立当初から年1回発行してきた会報を最近、CDに変えた。演者のご好意により講演で使用したスライドを掲載できるので好評である。また製作費も安くできるので会計担当は大助かりである。

今後も会を続けるため、会員と一緒に頑張っていきたいと考えている。

宮崎県の小児歯科事情



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 井上 浩一郎

“どげんかせんといかん”

今や時の人となった、そのまんま東こと東国原英夫宮崎県知事の県民の気持ちを変えていったキャッチフレーズです。就任後約6ヶ月、全国に宮崎をアピールしてくれております。

その宮崎では、専門医の旭爪伸二先生を中心に数名の認定医しかいない現状の中で、主に宮崎市内の開業医の先生方が集まり、宮崎小児歯科臨床懇話会として毎月1回テーマを設け勉強し研鑽を行なっております。以前、平成13年度の3歳児健診全国ワースト1を機に、

“どげんかせんといかん”

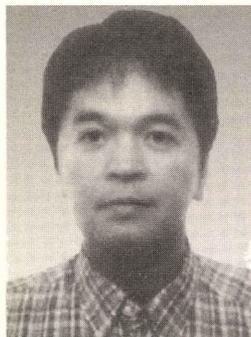
ということで、出生前から生後1歳半をターゲットに啓発のためのパンフレットを作成しました。苦勞して出来上がったせいか、なかなかの仕上がりに

つい満足してしまい、その後の活用に苦慮しております。少しでも効果をあげたいと思っております。

今年になって、行政(宮崎市)では、齲蝕罹患に関して中核市の中で相変わらず低い水準を推移していることから、歯科保健リーフレットを作成し、関係機関へ配布されました。再び、“どげんかせんといかん”
せっかく作った我々のパンフレットをいかに多くの方に目を通していただくか。先の知事効果で、宮崎の物産や産物は相当売上げが上がっているとのこと。東国原知事の似顔絵シールでも貼って配ってみようか…。

“どげんかせんといかん”

鹿児島県の小児歯科事情



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 豊島 正三郎

鹿児島県には2次医療機関として、鹿児島市に鹿児島大学病院があり、県下の開業医より紹介を受け、診療にあたっております。特に、鹿児島県の地理的な特徴として、離島があげられますが、小児というよりも障害児(者)の方の離島を含めた遠方よりの来院が多いようです。

昨年まで、鹿児島大学と開業小児歯科医の連携システムがしっかりできておりませんでした。昨年、奥猛志日本小児歯科学会理事が中心となり、“鹿児島大学歯学部小児歯科学講座同門会”を改めて立ち上げました。もちろん、鹿児島大学小児歯科のOBは他県でもご活躍されておりますので、同門会におきましては、同門の先生方と大学との連携を図っていくのを主眼にしております。ただその中で鹿児島という地方の大学の同門会でありますので、鹿児島県の小児の口腔の健康に寄与すべく活躍していきたいと考えております。

これら専門医、認定医がいわゆる一般開業医の歯科医院よりの紹介を受けることはありますが、それぞれ個々にされていることであり、小児歯科の紹介システムがしっかりできているわけではありません。ただ一般開業医の先生方は上記の先生方がいわゆる“小児歯科専門”であるという認識は持っておられるかと思えます。

また地域の方々においては、口コミ等により、以前よりは小児専門の歯科の存在を認識してきているかと思えます。

以前は我々小児歯科学会会員からみた状況であり、“鹿児島県の小児歯科事情”というタイトルからは少しずれているかもしれません。と言うのは、前述のように学会の専門医、認定医が鹿児島市に集中しており、そのために郡部や離島の状況が不明であるからです。

今後、鹿児島大学はもちろんのこと、鹿児島県、鹿児島県歯科医師会、などとも連携をより密接にし、鹿児島県全体の小児歯科をしっかりとしたものにしていきたいと考えております。

ついに沖縄小児歯科研究会設立しました!!



日本小児歯科学会九州地方会
幹事 竹島 勇

「沖縄の未来を背負う子供たちに歯・口の健康はもとより健康な身体づくり」に貢献できるようにという設立の趣旨のもと、沖縄県歯科医師会会員を中心に呼びかけましたところ、22名の先生方にご賛同いただき、平成19年2月に沖縄小児歯科研究会を発足いたしました。

発足記念講演会(2月12日)には、岡山大学歯学部小児歯科講師 岡崎好秀先生をお招きして「世界でもっとも受けたい小児歯科診療」の演題で講演会が開催されました。講演会は、沖縄県各地から総勢90人の先生、スタッフのご参加をいただき、小児歯科をアピールするよい機会となりました。

現在、沖縄県内には、日本小児歯科学会会員25名、JSPP会員が5名おります。それぞれが個々に小児歯科分野で活動しておりますが、相互交流の機会はありませんでした。また、沖縄県の小児歯科医療の現状としては、3歳児のう蝕有病者率が、ここ4年 全国ワースト1位という不名誉な記録になっております。これから沖縄県の子供たちの健やかな成長を支援する意味でも、組織的な活動が必要だと思われ、本研究会のもつ意義は大きいものがあると思います。

今後の研究会の活動としては、まずは、県外から講師を招いた年2回の定例講演会を中心に、情報交換の場とし、会員相互の親睦を図りながら、楽しくかつ有意義な会にしていきたいと思っております。

九州地区スタディーグループ一覧

スタディーグループ名称	会長名	郵便番号	連絡先住所	電話番号	FAX番号
長崎小児歯科臨床医会	有田 信一	852-8016	長崎市宝栄町14-8	095-862-8131	095-862-3725
熊本小児歯科懇話会	逢坂 亘	862-0950	熊本市水前寺1-17-32 石本ビル2F たんぼぼ小児歯科内	096-384-0020	096-384-0020
佐賀小児歯科研究会	森永 太	849-0935	佐賀県佐賀市八戸溝3-8-2 うめず歯科・小児歯科医院 梅津哲夫	0959-30-2555	0959-30-5566
鹿児島小児歯科臨床研究会	濱崎 栄七	892-0828	鹿児島市金生町1-10	099-222-6834	099-222-6834
鹿児島ビド・グループ	坪水 良平	892-0014	鹿児島市草牟田1-15-24	099-224-6773	099-224-6773
北九州市小児口腔保健学会	木村 光孝	803-0835	北九州市小倉北区井堀1-23-28	093-581-0198	093-581-0198
北九州市小児歯科集談会	橋本 敏昭	802-0056	北九州市小倉北区黒住町24-41	093-951-3100	093-921-4026
福岡小児歯科集談会	國武 哲治	814-0161	福岡市早良区飯倉3-36-3 くにたけ小児歯科	092-845-4887	092-845-4887
NPO法人「ウェルビーイング」	西本美恵子	810-0041	福岡市中央区大名1-15-24 Well-Being BLDG 2F	092-771-5712	092-741-8037
月曜会	砥上 照美	811-1356	福岡市南区花畑3丁目17-12	092-565-1216	092-565-1216
宮崎小児歯科臨床懇話会	旭爪 伸二	880-0872	宮崎市永楽町207-1 わかば小児歯科医院内	0985-27-2003	0985-25-1047
宮崎障害者歯科懇談会	安部 喜郎	887-0012	宮崎県日南市園田1丁目1-16 安部歯科医院	0987-23-6878	0987-23-8950
沖縄小児歯科研究会	比嘉 良喬	903-0806	那覇市首里汀良町3-63-3 ハイビスカスMB1号室 くぼがわ歯科医院	098-887-6480	098-887-6480

九州地区5大学講座一覧

大学講座名	主任教授名	郵便番号	住 所	電話番号	FAX番号
福岡歯科大学成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野	本川 渉	814-0193	福岡市早良区田村2-15-1	092-801-0411	092-801-4909
長崎大学大学院歯薬学総合研究科 医療科学専攻 展開医療科学講座 小児歯科学分野	藤原 卓	852-8588	長崎市坂本1-7-1	095-849-7672	095-849-7672
九州大学大学院歯学研究院口腔保健 推進学講座小児口腔医学分野	野中 和明	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1	092-642-6400	092-642-6468
鹿児島大学大学院歯学総合研究科 健康科学専攻 発生発達成育学講座 口腔小児発達学分野	山崎 要一	890-8544	鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	099-275-6262	099-275-6268
九州歯科大学健康促進科学 機能育成制御学講座 口腔機能発達学分野	牧 憲司	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2-6-1	093-582-1131	093-583-5385

平成19～20年度日本小児歯科学会九州地方会役員

会 長	橋本 敏昭(福岡県・地方会推薦理事)	
副 会 長	野中 和明(九州大学)	井上浩一郎(宮崎県)
	久芳 陽一(福岡県)	豊島正三郎(鹿児島県)
常任幹事	本川 渉(福岡歯科大学)	竹島 勇(沖縄県)
	藤原 卓(長崎大学)	西田 郁子(九州歯科大学・会計担当)
	山崎 要一(鹿児島大学)	西岡 孝浩(九州歯科大学・庶務担当)
	野中 和明(九州大学)	馬場 篤子(福岡歯科大学)
	牧 憲司(九州歯科大学)	福本 敏(九州大学)
幹 事	空田 安博(福岡県・広報担当)	細矢由美子(長崎大学)
	松田容士子(福岡県)	齊藤 一誠(鹿児島大学)
	梅津 哲夫(佐賀県)	特別幹事 品川 光春(長崎・会長推薦理事)
	田口 知義(長崎県)	奥 猛志(鹿児島・地方会推薦理事)
	逢坂 亘彦(熊本県)	監 事 有田 信一(長崎県)
	木船 敏郎(大分県)	尾崎 正雄(福岡歯科大学)

■編集後記

田中角栄的政治を破壊した小泉シンドロームが、日本の政治システムに根付き、安倍政権が発足して1年が経ちました。今年の参議院選で、この小泉シンドロームの潮流に乗り切れずに自民党が歴史的な大敗を喫して、安倍首相が突然の辞任表明で政治の混乱を引き起こしました。歯科界においては医療制度改革の潮流に押し潰されないように、各会員の知恵を出し合って乗り切っていかなければなりません。会員皆様の御意見を九州地方会事務局までお寄せください。
(広報担当幹事 空田安博 記)

平成19年度日本小児歯科学会九州地方会事務局
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1
九州歯科大学 健康促進科学
機能育成制御学講座 口腔機能発達学分野内
TEL：093-581-1131 FAX：093-583-5383

九州地方会ニュースレター正誤表

P	誤	正
16	九州地区5大学講座一覧の長崎大学歯薬学総合研究科	長崎大学 <u>医</u> 歯薬学総合研究科
16	九州地区5大学講座一覧の九州歯科大学FAX番号 093-583-5385	093-583-538 <u>3</u>
16	平成19～20年度 日本小児歯科学会 九州地方会役員	平成 <u>18</u> ～ <u>19</u> 年度 日本小児歯科学会 九州地方会役員